



中間とりまとめにあたって

水問題研究会での議論の記録を正確に示すことに重点を置く。
 「提言」では、資料集を作成するなど、内容を簡略化した取りまとめも想定。
 下記基本的課題について共通認識のうえ検討実施。
 ・気候変動による洪水・濁水・渇水のリスクの増大に対応。
 ・「四国はひとつ」の共通意識
 ・歴史的経緯の尊重と直面する課題への冷静な対応
 ・公平な水配分と受けられやすい解決策

1. 四国地方の特性と環境の変化

1.1 四国の自然的特性と吉野川との関わり
 1.1.1 四国の自然特性
 1.1.2 吉野川との関わり
 (1) 吉野川総合開発以前の状況
 (2) 吉野川総合開発後の状況

1.2 水問題を取り巻く環境の変化
 1.2.1 最近の気象状況の変化
 1.2.2 社会条件の変化

2. 吉野川水系等の水事情

2.1 河川機能から見た水事情の状況

2.1.1 治水安全度の向上
 (現状と課題) (方向性)
 (1) 早明浦ダム洪水調節容量の不足 (1) ダムの洪水調節機能の向上
 (2) 低い吉野川の堤防整備率 (2) ハード・ソフト対策による治水安全度向上
 (3) 関係機関の連携

2.1.2 利水安全度の向上
 (現状と課題) (方向性)
 (1) 吉野川水系の水利用 (1) 水利用の検証と効率的な水利用
 (2) 利水安全度の低下 (2) 目標利水安全度の回復と向上

2.1.3 環境の改善
 (現状と課題) (方向性)
 (1) ダム下流の河川環境の悪化 (1) ダム下流の河川環境の改善
 (2) 地球温暖化対策 (2) 良好な水質の確保
 (3) 水力発電の有効利用

2.2 地域社会から見た水事情の状況

2.2.1 水源地域の状況
 (現状と課題) (方向性)
 (1) 水源地域の活力低下 (1) 水源地域の活性化

2.2.2 受益地域の状況
 (現状と課題) (方向性)
 (1) 洪水・濁水に弱い社会基盤 (1) 濁水に強い社会システムの構築
 (2) 非常用緊急水源の確保
 (3) 受益地域の連携

2.3 水事情の相互関係の状況

2.3.1 機能面から見た相互関係
 治水と利水との関係
 発電と他用途との関係 等

2.3.2 地域社会面から見た相互関係
 ダム等の洪水調節施設整備と下流の河道整備等との関係
 水資源開発と水の有効利用との関係
 ダムの濁水対策と効率的な水利用による濁水頻度の減少との関係 等

2.3.3 適正な相互関係を築くための基本的な考え方
 「利水調整者の権限強化」と「市民参加の実施」の2つのアプローチの考え方
 中間的とりまとめの段階では、両論併記に幅広い議論を喚起する考え方

2.4 将来を見据えた水問題の解決

(現状と課題) (方向性)
 (1) 社会情勢変化への対応 (1) 吉野川を軸とした四国4県の連携
 (2) 気象変化等への対応 (2) 安全・安心な水利用の確保

3. 水問題の解決に向けた留意点

3.1 情報の共有
 3.2 取り組みの評価
 3.3 交流と連携

4. 水問題解決の実現に向けて

水問題の解決については、関係機関の相互理解のもと連携し取り組む必要があり、今後、施策や実施主体や施策の優先度等の考え方について検討する必要がある。
 水問題の解決に向けた制度設計。
 最終的な提言の取りまとめに向けて

「提言」の内容

「中間とりまとめ」の内容

継続して検討すべき内容